

平岡通信



多様性を認め合い、自分で考
え、判断し、決定し、行動で
きる子どもの育成

8・9月号令和6年8月26日

堺市立平岡小学校



《みんながっていい 自分で決める 違いを対話で分かり合う》

2学期がスタートしました

校長 丹後靖史

7月22日から始まった夏休みが昨日25日に終わりました。今年も猛暑による熱中症などの防止のため、保護者のみなさまは子どもたちの体調管理にかなりお気遣いされたことでしょう。

今朝も正門で出会った子どもたちは元気に登校してきていました。きつとどの子も、猛暑で不自由ながら、充実した夏休みを過ごすことができ、切り替えができていたのだと感じました。そこには、保護者のみなさまの細やかな配慮があったことと思います。

さて、本日、2学期の始業式を行いました。始業式では、「みんながっていい 自分で決める 違いを対話で分かり合う」をスローガンに、2学期も元気に過ごしてほしいと話しました。今学期はどんなことに「自分で決め」て挑戦するのでしょうか。楽しみにしています。加えて、先生は意欲的に学習に取り組めるような環境づくりに注力するので、みなさんは当事者意識をもって学力をしっかりと身につけるように努力しましょう、と呼びかけました。

【学年担任制を一層推進します】

昨年度から学年の担任全員で学年の児童を指導・支援していく方針をお伝えしています。現在、高学年担任は社会と理科を交換して授業しています。他の学年でも算数などで習熟の授業をして、担任以外の児童も指導しています。道徳等の授業で交換授業をしている学年もあります。それを学校全体で広げて、学級担任だけが学級の児童を指導・支援するのではなく、同じ学年の担任同士で連携をとりながら、学年全体を指導・支援する組織作りをしていくというイメージです。例えば、担任を交換して、2組の担任が3組の担任をしたり、隣の担任が教科の授業を指導したりします。

担任の学級の児童ばかりでなく、他の学級の児童も併せて指導・支援することで、児童にとっても多様な先生との関わりが持てたり、教員にとっても同じ学年の児童を多様な目で見たりすることになるので、学年一人ひとりの児童を以前よりは具体的にイメージしやすくなり、トラブルなどにおいても学年として支援しやすくなるという効果があります。

なお、学年によって児童の実態は異なりますので、中学生を視野に入れた高学年と同様にはできません。実態に合わせた指導・支援をしながら、児童一人ひとりの成長を見守りたいと考えています。

【大阪代表・平岡小、神奈川代表・浅野中が初優勝 文科大臣杯小・中対校団体戦決勝大会】



「文部科学大臣杯第20回小・中学校対校団体戦」(略)の決勝大会が9日、東京都千代田区(略)で行われ、小学校の部は大阪代表の堺市立平岡小(寺田真真、大井理史、井上諒音)が、(略)初優勝を飾った。

決勝大会は東西大会を勝ち抜いた小中上位各2チームが準決勝、決勝、3位決定戦を戦った。小学校の部優勝の堺市立平岡小大将の6年生、寺田君は「最後まで力を合

決勝大会の結果

小学校の部	中学校の部
堺市立平岡小	浅野中
1 内野小 2 平岡小 3 三本小 4 浅野小 5 松山小 6 浅野小 7 浅野小 8 浅野小 9 浅野小 10 浅野小	1 浅野中 2 浅野中 3 浅野中 4 浅野中 5 浅野中 6 浅野中 7 浅野中 8 浅野中 9 浅野中 10 浅野中

わせて優勝できた。良かった」、(略)と喜びを語った。(産経新聞サイトから引用)

素晴らしいですね。快挙です。将棋大会において小学校のチームとして日本一になったのです。高校野球で日本一になるようなものです。昨年度は5年で出場し、全国大会3位でした。その悔しさをばねに、3人でも切歯磨きし、技を磨いていったと思われます。「自分で決め」た道で成果を出せたことは自信となるでしょう。誠におめでとうございます。

【8・9月の主な行事予定】

- 26日(月) 始業式(11:40 下校)
- 27日(火) 3時間授業(11:40 下校)
- 28日(水) 給食開始 4時間授業(13:30 下校)
- 29日(木) 4時間授業(13:30 下校)
- 30日(金) 4時間授業(13:30 下校)
- 9月3日(火) 880万人避難訓練
- 12・13日 6年 修学旅行
- 13日(金) 給食試食会
- 23日(月) 平岡読書デー
- 25日(水) 1-1 研究授業のため当該学級以外は4時間授業(下校 13:00)
- 27日(金) オープンスクール 金銭教育出前授業 LGBTQ教育講演会 学級懇談会



【金銭教育公開授業 in 大阪の開催について】

以前からお知らせしていますように、本校職員は11/8(金)14:00~17:00に実施する公開授業及び研究会に向けてその授業計画を作成しています。当日は各学年1本ずつ公開授業をし、その後、2年間の取組と講演を行います。参加者の方々は他校の教員や学生、行政の方々です。ご理解とご協力をお願いします。

【精神疾患で休職の教員過去最多 初の6000人超】

うつ病などの精神疾患で昨年度休職した公立学校の教員は、一昨年度より1割余り増えて6539人と、初めて6000人を上回り過去最多となりました。20代の増加率が高く、文部科学省は「職場環境は非常に深刻で、教員不足の中で若手をどうサポートするかが課題だ」としています。

こうした現状を踏まえ、新卒教員を対象に担任業務の負担を軽減する取り組みを始めた果もあります。文部科学省によりますと、昨年度、うつ病などの精神疾患で休職した公立学校の教員は、▽小学校で3202人、▽中学校で1576人、▽高校で849人、▽特別支援学校で872人などで、合わせて6539人となり、前の年度より642人、11%増えて過去最多となりました。6000人を上回るのは、調査を始めた1979年以降初めてです。



このうち1270人は、2023年度4月時点で退職しています。この他にも、精神疾患で有給休暇を使って1か月以上休んでいる教員も全体で5653人いて、休職中の教員と合わせると12192人になっています。要因について文部科学省が各教育委員会に聞いたところ、▽教員間での業務量や内容のばらつき、▽保護者からの過度な要望や苦情への対応のほか、▽コロナ禍で児童生徒や教職員間でのコミュニケーションの取りづらさがあったことなどが挙げられたということです。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231222/k10014295991000.html>

教員不足は深刻です。これまであまりこのよう **裏面もご覧ください**

な報道がなされてこなかったで、ご存じない方が多かったと思いますが、教員を目ざす方々がまた減少するように思います。正規の教員と同様に講師等の非正規の教員も不足しています。育休や介護休、病休等をとれば、代替の教員が確実に保証されているわけではないのです。このことは、すべて子どもがきちんとした教育を受けられないことを示しています。義務教育の体をなさなくなります。

仮に、毎年精神疾患での休職者が過去最高を更新しているという企業があれば、もうそれは完全にアウトな会社です。社員に対してまともな経営をしていないということで、世間からの信用を得られなくなります。しかし、それでも学校は稼働しています。

本校でも勤務時間は8:30～17:00となっていますが、残業代は出ない残業時間が月平均40～60時間程度あります。定額働かせ放題という批判もあります。家庭科や音楽、英語、高学年算数などの専科が入ってもまだまだ担任がすべき業務は多いです。17:00以降に解決すべき事案や仕事が山積しています。制度面から持続可能な教員の働き方にしないと、ますます希望者が減り、将来を担う子どもたちがよりよい教育を受けられず、将来にわたって不利益を被ることになります。

今後ますます激動の時代となりますが、今の子どもたちは生き抜かないといけません。突然パンデミックが発生したり、戦争が勃発したり、仕事がAIによって取って代わられたりする事態等も予想されます。そのような予測不可能な社会で生き抜くためには、ますます日々更新された教育の力が必要となります。そのためには、教員の働き方の早急な見直しが必要です。教員が健康に働けなくて子どもの健康を守れません。問題の先送りには許されません。日本の没落を一層加速させてしまいます。みなさんからののお知恵もお借りしたいです。ご協力をお願いします。



【児童一人一人に身につけさせたい「読む力」「書く力」の育成(2)】

先月号に引き続き、家庭でできる「読む力」の育成の手立てについてお伝えします。

辞書(スマホなどの端末)で言葉を増やそう

いくら文法を覚えても、単語を知らなければ英語がわからないのと同じです。文章を正しく理解するには豊富な語彙力が必要です。言葉を覚えるのに一番良いのは辞書(スマホなどの端末でもOK)です。小学生なら子ども向けの辞書を用意しましょう。とはいえ、ただ辞書を読め!と言ったところで子どもは退屈です。例えば新聞やニュースでわからない単語が出てくれば、大人の方は大人向けの辞書を使い、子どもと「どっちが早く言葉を見つけようか」と競争してみるのもよいですよ。



読解力「読む力」はすべての学びに必要

「よみ・かき・そろばん」とはよく言ったもので、最初に「読む」がくるように、すべてにおいて「文章の内容を理解できる」ことはとても大切です。算数や理科、社会でも、まずは読めないといけません。4月に行った学力調査やすくすくウォッチでも、内容や問題の意味を読み取れないと解けません。特に活用力を問う問題はその傾向が大きいです。読む力は一朝一夕では身につけません。例えば九九なら毎日暗記すれば1ヶ月もあれば覚えられます。同じように「ひらがな」や「漢字」は練習すれば覚えられます。しかし、読解力は「本を1冊読めば身につく」ものではなく、継続して積み重ねて身につくものです。ただ読むだけでなく、内容を理解し、その上で自分で考えられるようになるには時間がかかります。

読解力がつく方法を2つご紹介しましたが、とにかくやってみることは大切です。それ以上に重要なのが、読む力につながることを少しずつでもいいので、子どもの興味にあわせて続けることです。言葉を覚える、文章を読む、どんなことが書かれているのか理解する。理解するだけでなく深く考える。読解力とは、そうし



た経験の積み重ねの上にあるのだと思います。



【非認知能力が話題です】

最近、「非認知能力」が取り上げられています。私が子どもの頃に流行ったCMに「わんぱくでもいい。たくましく育てほしい」というのがありました。この「わんぱく」や「たくましさ」は人によってイメージが違いますが、このような力は点数によって測れません。けれど、私たちが生きていく上でとても大切です。

したがって、「みんなちがっていい(多様性) 自分で決める(自律) 違いを対話で分かり合う(対話)」は非認知能力になります。他にも、コミュニケーション力や思いやり、忍耐力、自信・自尊感情、やり抜く力などが挙げられます。

では、認知能力とはどんな力でしょうか。点数化して測ることができる力です。例えば、「漢字を書く力」や「文章題を解く力」などです。この2つの力はどちらも大切な力です。どちらか一方だけ伸ばせばいいものではないですし、伸ばせる力でもありません。「文章題を解く力」にしても、その力を身につけるためには、解こうとする意欲や解けるまで諦めない忍耐力、分かなければ友だちや先生に質問するコミュニケーション力などが必要です。

ただし、認知能力は主に学校などの教育機関で育成される機会が多いのですが、非認知能力は学校以外の場所、例えば、ご家庭や地域、習い事などでも育ちます。特に、ご家庭ではそういった非認知能力こそ大切だと、折につけお話をされていることと思います。だからこそ、家庭と地域、学校が一体となって連携を取りながら、同じ方向を向いて子どもを育てることがより一層大切になってきます。



【今こそ平和を! 8月6日 広島平和記念式典】

式典では、(略)名前が加えられた34万4306人の原爆死没者名簿が原爆慰霊碑に納められ、午前8時15分に、参列者全員が黙とうしました。

核による威嚇を繰り返すロシアによるウクライナ侵攻は3年目に入り、パレスチナのガザ地区ではイスラエルによる激しい攻撃が続くなど、核兵器廃絶の道のりは厳しさを増しています。広島市の松井市長は、平和宣言で「国際問題を解決するためには拒否すべき武力に頼らざるを得ないという考え方が強まっている」と懸念を示したうえで、市民社会に対して「心をつなげて行動すれば、核抑止力に依存する為政者に政策転換を促すことができるはずだ」と呼びかけました。また、日本政府に対しては、来年3月の核兵器禁止条約の締結国会議にまずはオブザーバーとして参加し、一刻も早く締結国になるよう求めました。

そして、地元の小学生2人が「言葉にすることさえつく悲しい記憶は、79年たった今でも多くの被爆者を苦しめています。願うだけでは平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです」と、「平和への誓い」を述べました。

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240806/k10014538571000.html> から引用)

8/16付の新聞に、元特攻隊員の言葉が紹介されていました。時の首相は平和式典等の演説で、「今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者の皆さまの尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時も忘れません。」とよく言われますが、戦争に行くように命令したのは国や時の為政者だということを認識しているのか疑問であると。そこを問うていかなければならない、との意味のことを言っていました。

私はいつも何気なく上記の言葉を聞いていましたが、確かに戦場に行きたくて行ったのではなく、命令によって仕方なく行かされたことを改めて認識させられました。余談ですが、戦死者の6割は餓死が原因の学説もあります。

日本は昨年度防衛費2倍増額の法案が決まりました。「台湾有事」という言葉がマスコミにぎわし、危機感をあおる方々もいます。米国製武器を大量に購入するよりも、日本と中国で交渉をし、平和的な方策を地道に進めるべきではないでしょうか。日本はもちろん、多くの国が中国との貿易に支障を来すと、死活問題になってしまう現状があります。

私は防衛費増額よりも、食糧やエネルギーなど生活必需品が安心して供給できるように、加えて、低賃金を上げたり、少子化に歯止めをかけたりという生活を豊かにする方向に舵を切るべきだと思います。とにかく、子どもたちが希望を持てる社会を望みます。



--	--

【みんなで取り組む地球温暖化防止対策】

今年の6月は比較的涼しいように感じましたが、やはり、7月に入ると、各地で40℃近い気温を記録し、夏休みも猛暑日が続きました。今のままで何もせずに放っておくと、2100年には、地球の平均気温が4.8℃も上がると予想されています。

また、地球全体の温度が上がると南極や北極の氷が解けだします。すると海面の高さが上がります。すでに、この100年間で10～20cm海水面が上昇していて、南の島が海に沈む可能性もあります。したがって、国際間の約束で2030年度までに温室効果ガスを13年度比で46%削減する目標を政府も掲げました。ようやく重い腰を上げたわけです。家庭部門で66%を削減するなど、目標達成に必要な全部門の削減量を初めて明記しました。今後私たちにもずいぶんな負担になると思います。難しい問題ですが、温暖化については、児童のみなさんも考えてくださいね。